

はじめに

21世紀に向けて、心新たに「平成」の時代を歩きました。

近年、急速に都市型社会への移行が人々の生活、消費、情報化、国際化や技術革新が一段と進んでおります。そして、生活様式と消費行動の多様化により、私達の生活はより一層の

石川の土木建築史

この歴史は、競争激しい市場や自然に恵まれている一方で、雨や雪の多い気候特有の気候風土を反映しています。そのほかにも、人々は昔から数々の困難を克服し、より豊かな社会の実現に向けて、知人の力をあわせてきた伝統と技術を受け継ぎながら、道路、河川、都市計画、公園、下水道、緑地などの生活基盤づくりを進めてまいりました。その結果、石川県には数多くの伝統工芸と美しい郷土が育まれてきたと思われています。

この石川の土木建築史は、県内の土木建築事業に関連した施設を古代から現代に至るまで、社会的な観点だけでなく、社会的背景や歴史、風土、文化等の観点からまとめて紹介し、取り上げて紹介し、多くの先人達の業績や思想、伝統、技術を学ぶことにより、県民に誇りや愛着を育み、そして後世へとまた引き継いでいくことが肝要であると考えています。また、過去から現在、現在から未来へと進歩と歴史の連続性を感じていただくことを目指しています。

本書は、土木建築の歴史が流れを知る上でも、土木建築事業に直接携わる職員はもとより、関係する方々や一般市民の皆様にも参考となるものであると期待しております。

また、本書では、昨年、石川県長選挙で「21世紀へのビジョン」を掲げ、「魅力ある都市づくり」を掲げ、県民の豊かな生活と、物と心の豊かさを実感できる社会の達成を目指して取り組んでいます。県民の皆様のご要望に応えられるよう、土木建築行政の積極的な推進を図ってまいります。皆様により一層の御理解と御協力をお願いいたします。

平成28年4月

石川県知事

石川県土木部

2-4 水害史

県内の主な水害は以下のとおりで、かなり頻繁におこっており、被害も甚大である。

■霊亀2年(716年)手取川洪水

手取川出水、加賀白山拝所の境内崩〔白山比咩神社伝〕

■寛文8年(1668年)金沢洪水

金沢大雨犀川浅野川洪水、破家223軒、溺死78人、加賀能登損高48,600石余、流家93軒、溺死者18人〔玉露集地〕

犀川切れ新竪町本竪町を経河原町へ暴流、河辺の家屋百余り流失溺死者〔菅家見聞集〕

■寛文11年(1671年)8月5日～9日 全県下

加賀25,090石能登530石減収、流失家屋204軒、溺死68人、牛馬12疋溺〔加賀藩史料〕

■天明3年(1783年)8月8日 金沢洪水

犀川、浅野川大橋、小橋、仮橋共残らず流失、両川筋にて溺死者500人余、手取川も洪水、9軒流失、官腰へも水付き、森下町へも洪水橋落ち、其外所々損所多し〔政隣記〕

■明治7年(1874年)7月7日 手取川犀川洪水

手取川出水、本田畑、新田等流失〔水害史〕

犀川向上藤棚辺の堤防破壊して新竪町、本竪町筋水害〔金沢古蹟誌〕

犀川は1丈2尺の増水、県下296ヶ村で水田1,003町9反1畝、堤防決壊363ヶ所、橋80、浸水家屋2,673戸、損家36戸、流失家屋13戸、死者23名〔石川県史料〕

■明治24年(1892年)7月20日 手取川洪水

手取川が出水、既往170余年絶無の出水、大惨害を生ず、県議会は水源涵養について内務大臣に建議書を提出す。〔県史〕

■明治29年(1897年)8月2日 手取川、梯川洪水

手取川、梯川、大聖寺川、犀川、浅野川他県下の各河川が大増水、特に手取川、梯川流域の被害が甚しく、床上浸水8,823戸、床下浸水2,120戸、流失橋梁1,228、死者73名、負傷者147名。〔水害誌〕

■明治35年(1903年)7月14日 加賀地方大水害

明治年間における第2位。県下の被害は流失橋梁394、損害家屋7,165、耕地33,219町歩、被害箇所は主に江沼、能美、石川3郡。

■大正11年(1922年)8月3日 金沢洪水

金沢測候所開設以来の豪雨、4時間で106mm犀川

水位(大橋詰)15尺、大桑橋、上菊橋、桜橋、西御影橋、新橋流失、鉄筋コンクリートを以て建築後尚新たな大橋を陥没破壊。〔北国〕



写真②-4-1 大正11年 洪水で痛めつけられる川除町の民家

■昭和9年7月10日～11日 手取川大氾濫

手取川の大氾濫、大被害を発生。死者91、行方不明18、家流失240。



写真②-4-2 昭和9年 洪水で流失寸前の手取川鉄橋

■昭和27年6月30日～7月1日 金沢市・河北郡に集中豪雨

梅雨前線、集中豪雨、金沢市、河北郡が特に被害が甚しかった。死者2、行方不明1、家全壊9、半壊40、床上浸水1,148。

■昭和28年8月24日 浅野川に大被害

浅野川の増水著しく、浅野川大橋をのぞき全橋流失。死者1、行方不明3、家全壊1、半壊16、床上浸水4,029。

■昭和31年7月16日 奥能登に集中豪雨

能登半島の河川は急増水し、堤防欠損、橋梁流失が相ついだ。輪島市では、いろは橋を残して全橋流失した。死者8、家全壊12、流失9、床上浸水2,273、橋流失235、堤防決壊220。

■昭和33年7月24日～26日 能登・大聖寺に豪雨
23日奥能登地方に集中豪雨。24日加賀(大聖寺)方面に豪雨、県内各地に被害救助法が発動された。死者5、家全壊34、床上浸水5,266、橋流失257、堤防決壊55。



写真②-4-3 昭和33年 輪島市内水害の跡

■昭和34年8月26日 奥能登に集中豪雨
奥能登一带に集中豪雨が、3時間で120mmを越す豪雨。各河川は一度に氾濫し大被害を生じた。県では奥能登一带の市町村に被害救助法を発動した。死者33、行方不明4、家全壊121、流失39、橋流失251、堤防決壊154。



写真②-4-4 昭和34年 奥能登水害で流される人(穴水町)

■昭和36年7月4日 金沢8年ぶりの被害
七尾、羽咋で浸水1,000戸、交通は杜絶し、金沢では、犀川が増水し市内浸水500戸、午後3時半には桜橋が半分流失、新橋は中央部が折れて沈下した。死者3、家全壊20、床上浸水1,686、橋流失50。

■昭和39年7月18日 金沢津幡を中心に再び集中豪雨

金沢市をはじめ加賀・能登一带の河川は一斉に増水。浅野川では下流の4ヶ所で決壊、津幡町に津幡川の濁流が押しよせた。死者8、家全壊52、床上浸水3,488。

■昭和43年8月28日～29日 前線豪雨、台風10号大あばれ

浅野川、手取川、大聖寺川に水防警報が発令。中小河川の氾濫が相ついだ。死者1、家全壊13、床上浸水228、橋流失4、堤防決壊6。

■昭和49年7月9日～10日 加賀地方大水害

県南部を中心に大雨。金沢で1時間に30mm以上、4時間で135mmの降水があつた。死者1人、全壊1棟、半壊1棟、床上浸水324棟、床下3,239棟、耕地冠水1,188ha、橋梁破損5か所、がけ崩れ52か所。

■昭和56年7月2日～3日 大聖寺川大水害

南加賀地方を中心に大雨、時間雨量40mm前後、総雨量230mm、大聖寺で氾濫被害、浸水面積242ha、床下浸水866戸、床上浸水1,457戸、被害額80億に達し、大聖寺川が激特事業の採択を受けた。



写真②-4-5 昭和56年 ボートで救助される市民(大聖寺南)